説教要旨　「背負いきれない重荷」

ルカによる福音書１１章４５～５４節

先週の３７節以下には、イエス様がファリサイ派の人々に対して語られた厳しい批判の言葉が記されていました。ファリサイ派は、律法を厳格に守ることで神様の救いが得られるとしていた人々です。そのファリサイ派の運動を理論的に支えていたのが律法の専門家たちです。ですからこの律法の専門家は、ファリサイ派に対する批判を、自分たちへの批判として聞いたのです。

この人の批判を受けてイエス様は、今度は律法の専門家たちに対して、ファリサイ派に向けたのと同じように「あなたたちは不幸だ」と言われました。そして、あなたたち律法の専門家のために、律法が人々の重荷となってしまっていると指摘します。律法は本来、神様の救いの恵みに感謝して生きるための知識を与えるものです。ところが彼らは、それを守らなければならない掟にしてしまうことによって、律法を重荷とし、律法が本当は与えるはずの知識を人々から取り上げ、人々がそれを得ることを妨げ、勿論自分自身もその知識を得ようとしないと言うのです。

私たちはしばしば、神様の恵みのみ言葉をねじ曲げ、自分にとっても隣人にとっても重荷としてしまうようなことを繰り返してはいないでしょうか。人に背負いきれない重荷を負わせ、自分では指一本もその重荷に触れようとしないのが私たちの姿です。しかしイエス様は、私たちがお互いに背負わせ合っている重荷を、私たちから取り上げて、代って背負って下さったのです。そしてその重荷に背負ったまま、十字架の上で苦しみ、死んで下さったのです。このイエス様の十字架の死によって、私たちは、神様のみ言葉を、律法を、重荷としてしまうような歩みから解放されるのです。私たちの罪を全て背負って十字架にかかって死んで下さったイエス・キリストをこそ見つめて生きることによってこそ、聖書に記されている神様のみ言葉を、恵みのみ言葉として読み、聞くことができます。神様のみ言葉は決して重荷ではありません。み言葉に込められた神さまの愛に目を開かれて、共に歩んでまいりましょう。

（２０１９・７・７　説教者：稲垣真実）